

住道中学校だより	No. 9 令和元年6月7日 大東市立住道中学校 校長 岩藤 雅実 電話 072 (872) 7351
----------	---

ありがとう

しっかり学び、しっかり遊び、 しっかり思い出をつくれた最高の修学旅行

5月30日(木)朝5時55分集合です。早朝よりのお見送り、保護者の皆様、本当にありがとうございました。早速の出発式、生徒による進行です。実行委員長の言葉がすばらしい。校長は「人生には荷物が二つある。目に見える荷物、これはみんなで助け合おう。もう一つは見えない荷物。二泊三日の旅行中、友人の見えない荷物が見えたら、自分に何ができるか考えよう。」とあいさつしました。そして、学年主任の先生の言葉で気持ちを一つにして出発です。これは書かずにおれません。5時30分ごろには他学年の先生たちがあれやこれやと手伝ってくれています。バスに乗ると、その先生たちが学校の前の道に立って、ガードマンさんのように通行する車を整理してくれています。めちゃくちゃかっこいいです。ありがとう。4号車に乗った校長は、せっかく沖縄に行くので、「僕が生まれた～(島人ぬ宝)」を1番のみ熱唱。これは鉄板ネタです。あっと言う間に、伊丹空港。ここで、早速あったか光線です。搭乗を待つ間のトイレで、女子が並んでいたそうです。そこに小学生が入ってきたとき、「順番抜かしているよ。先に行き。」と声をかけた生徒がいたそうです。また、他のトイレのときかもしれませんが、お年寄りが生徒列のあとについたときにも、「お先にどうぞ。」と言った生徒たちがいたそうです。こんなことがむちゃくちゃうれしいのです。本当に優しくないといけないことです。また、声をかけることも恥ずかしく思う年頃です。すばらしい。搭乗を待つ3年生の態度も文句なしです。すばらしい。飛行機の中の態度も申し分なし。

さあ、沖縄那覇空港到着です。5年連続沖縄へ行っていますが、今回は例年のムツとくる暑さはありません。バスに乗り、めざすは、ガンマ(地下壕)です。いきなり、沖縄修学旅行の一つのメインイベントです。糸数壕はヘルメットを着用します。それだけ、狭く、急な道を歩くということです。ホームページを見てください。他の壕はヘルメットは着用しませんが、狭い道、急な斜面は同じです。ここでもあったか光線出まくりです。狭いところに行くので、怖くて足が動かない人もいますが、それを、「ゆっくりでいいからな。」「そこで、お尻ついて。」「右足はここに置いて。」と助言しながら二人三脚で中に入る人たちがいました。見ていて胸が熱くなります。当然、遅い早いが出るのですが、先に行っている人たちもじっくり待ちます。ここもえらい。そんなことは当たり前のように待ちます。すばらしい。暗闇体験。事前学習で学んだ地獄のような出来事の本物の場所に立ち、ガイドさんの話を聞きました。何度行っても、こんなところに何か月もいるのはとても無理だと思います。そこに病人、死体、トイレのにおい…。絶対に戦争はいやだ、ダメだと思います。また、生徒の全員が、「日常の当たり前が、当たり前でないこと。」を感じたのではないのでしょうか。旅費のことでどうなるかは分かりませんが、できれば沖縄修学旅行を続けたいと思います。(現時点で変更の予定はありません。)平和の礎(いしじ)を見て、平和へのメッセージです。朝礼でも発表しましたが、厳粛な雰囲気の中、立派に述べました。その二人の生徒、そして、集中して聞いていた全生徒に「すばらしい」を贈ります。

さて、伊江島です。不安な人も多かったでしょう。ぜんぜん知らない人の家に泊まる、こわい人だったらどうしようと。入村式。民家さんがズラーっと並んでおられます。我らが畑中先生が、学年を代表してあいさつしました。「民家の皆様。今日泊めさせていただく、この生徒たちは、興奮しておしゃべりするかもしれませんが、絶対に悪いことはしません。(と言いつつ生徒の方に向き直って)な一、みんな、がんばるよな一。」と力強く宣言しました。生徒の顔は全員ニターっと笑っていたように感じました。すばらしいあいさつです。民家さんでの出来事は現時点では部分的にしか伝わっていません。琉球時代の民族衣装を着させてもらったり(ホームページ参照)、サーターアンダギーを作って食べたり、タコライスをおなか一杯食べたり、トラ

ンプをしたり、フォトフレームを作ったり、海の家をしている民家さんのお手伝いでかき氷を作ったり、朝4時半に起きて、おじいの車で城山(タッチュー)に登ったり…。生徒の皆さん。お家の人には自分の民家さんでの思い出を話してくださいね。その夜の先生たちの打ち合わせで、その日一日の生徒のがんばり、優しい言動を聞いてみました。すでに紹介した話は省略します。

- ○○くんたち数名が、遅刻しそうな○○くんを朝に迎えに行った。
- クラス全員でクラス全員が行けるように、積極的な活動を行った。
- 平和祈念資料館で他の団体が少しマナーに反する行動をしていたときに、住中3年生が「あれは、したらあかんやろ。」とつぶやいていたとのこと。平和学習をしっかりと行って行った住中生徒には、許せない行動だったのでしよう。
- おやつを用意できていなかった仲間とおやつを分け合って食べていた人がいたとのこと。いろいろ事情があります。単純におやつを忘れたのではないことを付け加えておきます。
- ふだん話していない仲間と話そうと、フェリーで向かい合って話そうとしていた人がいたこと。
- ガマで懐中電灯が消えたとき(本当に何も見えません)、仲間がサッと足元を照らして何とか前に進めたという話を聞きました。
- 軽い熱中症で(その後回復しました)、しんどくなった仲間がいたときにすぐに先生に知らせてくれた○○くん、○○さんがいたこと。うれしい話です。
- ○○くんが、○○くんに「おまえ、出発の朝、絶対に遅れるから、俺のところに泊まりに来い。」と言って前日からいっしょに泊まったこと。(今、校長はこれらのことを書きながら泣いています。うれしくて。)
- バスレク係りの生徒が疲れて眠っていると、周囲の生徒が「少し休ませたろう。」とそっとしておいたという話。

◇ここからは、二日目、三日目のあったか光線も書きます。

- 学年レクで、レク係りの人が最後に「この後、クラスミーティングです。僕らレク係りは自分を出そうということで、レクをがんばりました。みんなもクラスミーティングで自分を出してください。」と言ったこと。
- 民家さんとの別れの退村式で、実行委員代表の生徒が、とても心のこもったあいさつを民家さんに向けて行いました。最高にあったかいメッセージでした。その○○さんに、後で「最高のあいさつだったよ。」と言うと、「校長先生、それは間違いです。私にあのようなあいさつをさせてくれた民家さんにごそ、お礼を言うべきです。」と返ってきました。どこまですばらしいのでしょうか。なかなか言えません。
- 帰りの伊丹空港。トランクを持ってバスまで移動です。これがしんどいのです。おみやげがあるし。そんな中、歩いていると、逆行する生徒がいました。あとで聞くと、トランクを持って階段移動することがしんどそうな仲間がいたことを思い出して、その子のところまで戻ってヘルプしたそうです。うれしいですね。なんと、あったかい行動でしょう。すばらしい。
- 民家さんから「家に泊まった生徒さん。荷物の整理がすごくきれいです。こんなのは初めてです。」と言われたこと。
- 民家さんに「住中の生徒はどうでした？」と聞くと、「100点と言いたいけど、120点です。」と言われたこと。その話を退村式で言うと、他の民家さんが来られて「先生、家に泊まった生徒は130点でした。」と言われたこと。
- 退村式で、民家さんに教えてもらった三線を弾いてくれました。歌も歌ってくれました。その民家さんがこんなに早く覚えたのはこの子たちが初めてとおっしゃっていました。また、その音楽に合わせて沖縄の踊りを披露してくれたグループもありました。上手でした。
- 民家さんが別れのフェリーに乗っている住中生徒に「行ってらっしゃーい。」と大声で言うと、生徒たちが「行ってきまーす。」と大声で返しました。「さよなら」は別れです。「行ってらっしゃい。」再び帰ってくるという意味です。感動しました。また、この時には男女を問わず、オイオイ泣いていました。それだけ、中身が濃い一日だったのでしようね。

すみません。時系列に沿って書こうと思いましたが、途中であったか光線コーナーになりました。お許してください。